トイレに行って…は嘘だった

下関・梅光学院の1300人名簿紛失事件

2017.04.26 長周新聞

記者会見と異なる説明

教員や学生たちは驚き 不誠実さに疑問

梅光学院（下関市）の男性職員が市内のパチンコ店の駐車場で車上荒らしにあい、全学生の名簿など計約一三〇〇人分の個人情報が盗まれた問題をめぐって、樋口学長らの説明に事実と異なっている点があることや、当初の説明から二転三転していることを指摘する声があいついでいる。

実際は二時間パチンコ店

学院側は、事件から丸一日をへた一九日、学生や教職員に対して説明をおこない、午後には記者会見を開いて経緯を公表した。しかし当初、職員に対しては、「トイレに行っていた」と説明していたことが判明しており、同日昼休みに開いた学生に対する説明会では、車上荒らしに遭った場所について質問が出ると、「二次被害が出るので、警察と相談して場所は控える」とし、職員が公用車でパチンコ店に行っていたことを伏せていた。結局、数時間後の記者会見でパチンコ店の駐車場であること、二時間以上にわたって車を離れていたことを公表したため、学生も教職員も報道でその事実を知ることになり、驚きと怒りの声が上がった。

もう一点、事件を知った教職員が真っ先に心配したのは「初めから個人情報が狙われたのではないか」ということだった。梅光学院の公用車には、近年「梅光学院」という学校名のみならず、さまざまなアピール文を貼り付けていたためだ。樋口学長らはこの点について、「学校名はマグネットでとり外しできるようになっており、事件当時は外して車内に置いていた」と説明し、個人情報が狙われた可能性を否定している。だが、これをめぐっても、事故車両が修理工場に運ばれる直前まで「梅光学院」の表示が車体に貼り付けられていたのを目撃した人もいる。この点も事実ではない可能性が高く、学生の個人情報を狙った車上荒らしであった可能性も否定できないものとなっている。

説明会に多数の学生が参加

二日にわたって開催した説明会には多数の学生が参加し、その関心の高さをうかがわせるものとなった。

学生からは、「個人情報は名前だけでも高く売れる。しかも学校全部の名簿が入っている。もし学生が損害を被ったとき学院はどうするのか」「三、四年生の就活に多大な影響を与えることが考えられるが、どのように対応しようと考えているか」「危機管理を徹底していたと記事に書かれていたが、その男性職員はパチンコ屋に個人情報を持って行っていた。これは危機管理を徹底していたといえないのではないか」など、追及する発言があいついだ。当事者である男性職員に直接謝罪を求める声に加えて、樋口学長の引責辞任を求める声も出る状況だったという。こうした学生の声に対して樋口学長は「だれかがちょっとした不注意で盗難にあったり事故にあうこともある」「辞める辞めるというのが責任のとり方ではないことを、学生のあいだにしっかり心にとめておいてください」など開き直って発言し、学生たちの反感を買っていたようだ。

「ちょっとした不注意で個人情報が入ったものをパチンコ屋の駐車場に置いていたのか」「この事件があったことによって学院の信頼は落ちている。これまでもかなり落ちていたと思う。責任のとり方を正さねばならないこともある。学生の意志をもう少し大切にしてほしい」という意見が出るなどし、学院運営に対する意見や不信が募っていることをあらわすものともなった。

「個人情報保護」が叫ばれれば叫ばれるほど、個人情報が高値で取引される現実があるなかで、約一三〇〇人分の名簿が盗難にあうという事件に対する姿勢の不誠実さについて、学生や教職員のあいだで疑問がさらに広がるところとなっている。